

ユメ、カナウ。
耳を人前で出せる
シアワセ♪



ユメ、カナウ。
はじめての短髪
新たなスタート!



第5回

日本耳介再建学会

2022.11.4 fri - 5 sat

会場 札幌医科大学医学部

会長 札幌医科大学医学部
形成外科学講座 教授 四ッ柳 高敏



プログラム・抄録集

第5回 日本耳介再建学会 開催報告

目 次

- 1、 学会日程表
 - 2、 症例検討会プログラム
 - 3、 参加者名簿
 - 4、 Photo コーナー（学会の様子）
 - 5、 参加者の感想
 - 6、 主催者から
-

1、学会日程表

第1日目 11月4日（金曜日）

13:00～16:30	ライブサージャリー 「小耳症(耳垂残存型) 軟骨移植術」 場所:記念ホール2階 大ホール ⇄ 附属病院手術室 会場モデレーター :大阪医科薬科大学形成外科 塗 隆志 手術室モデレーター:愛媛大学附属病院形成外科 戸澤 麻美 執刀医:四ッ柳 高敏
16:30～17:00	意見交換会 場所:記念ホール2階 大ホール 司会:札幌医科大学形成外科 四ッ柳 高敏
18:30～	総合懇親会

第2日目 11月5日（土曜日）

9:00～11:50	症例検討会 場所:記念ホール2階 大ホール ※休憩時間に集合写真を撮影
12:05～13:00	ランチョンセミナー 「耳鼻咽喉科からみた外耳・中耳形態異常の臨床」 場所:記念ホール2階 大ホール 演者:札幌医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 高野 賢一
13:15～13:40	ショートレクチャー 「軟骨採取のコツ」 場所:記念ホール2階 大ホール 演者:札幌医科大学形成外科 北田 文華
14:00～16:00	ハンズオンセミナー（※希望者のみ） 「人参を用いた小耳症肋軟骨フレームカービング」 場所:記念ホール1階 会議室A

2、症例検討会プログラム

開会の挨拶

札幌医科大学形成外科 教授 四ッ柳 高敏

演題第1部

座長 妹尾 貴矢 (岡山大学病院 形成外科)

1. 耳介後部に膿瘍を形成した耳輪脚基部先天性耳瘻孔の2例

○下寺 佐栄子, 鳥谷部 荘八, 三浦 孝行, 小曾根 英 (仙台医療センター形成外科・手外科 東北ハンドサージャリーセンター)

2. 耳垂欠損を伴う耳甲介型小耳症に対する肋軟骨移植後の経過報告および修正手術についての相談

○笠井 昭吾¹, 野田 莉香子², 松浦 直樹³, 石原 昌平³, 福田 凌³ (済生会宇都宮病院 形成外科¹, 慶應義塾大学医学部形成外科学教室², 琉球大学病院形成外科³)

3. 新生児期に切除を行い10年後に耳介形成術を行った乳児血管腫の1例

○佐々木 薫, 中山 凱夫, 関堂 充 (筑波大学医学医療系形成外科)

4. 新生児期の耳介部褥瘡による耳介変形に対して再建術を行った1例

○三浦 孝行, 鳥谷部 荘八, 下寺 佐栄子, 小曾根 英, 岡田 誉元 (仙台医療センター形成外科・手外科 東北ハンドサージャリーセンター)

5. 札幌医科大学見学を経て、最近の当院の小耳症手術

○小柳 俊彰, 高木 誠司 (福岡大学 形成外科)

写真撮影(約10分)

休憩(約10分)

演題第2部

座長 鳥谷部 莊八（仙台医療センター 形成外科）

6. 遅発性に舟状窩皮膚の浮き上がりを認めた耳甲介型小耳症の1例

○玉田 一敬（東京都立小児総合医療センター 形成外科）

7. 初回手術サルベージに mastoid fascia を部分的に使用した症例における耳介挙上時の術式選択についての相談

○妹尾 貴矢, 長谷川 雄大, 木股 敬裕（岡山大学病院 形成外科）

8. 肋軟骨3Dモデルでシミュレーションした症例の検討

○戸澤 麻美, 森 秀樹, 眞田 紗代子（愛媛大学附属病院形成外科）

9. ICG 蛍光造影を用いた Mastoid Fascial Flap の血管・血流評価

○濱本 有祐, 四ッ柳 高敏, 船橋 真利美, 西端 魁志, 上田 直弘, 天王地 敏雅,
宮林 亜沙子, 寺邑 千尋, 大沼 眞廣, 北田 文華, 北 愛里紗, 権田 綾子, 山下 建
（札幌医科大学形成外科）

10. 永田クリニック患者速報

○四ッ柳 高敏（札幌医科大学形成外科）

3、参加者名簿

全国よりお越しいただいた先生方 26名
札幌医科大学事務局(医師、事務) 14名

氏名 *50音順 敬称略	所属
石垣 達也	千葉県こども病院
江藤 綾乃	水戸協同病院
笠井 昭吾	済生会宇都宮病院
加藤 小百合	東京医科歯科大学
楠目 信三	総合リハビリテーションセンター・みどり病院
桑原 広輔	静岡県立こども病院
小柳 俊彰	福岡大学
蔡 顯真	南大阪病院
坂井 勇仁	国立国際医療研究センター病院
櫻庭 実	岩手医科大学
佐々木 薫	筑波大学
佐々木 智賀子	奈良県立医科大学
島袋 真人	国際医療福祉大学病院
下寺 佐栄子	仙台医療センター
須永 中	自治医科大学 とちぎ子ども医療センター
妹尾 貴矢	岡山大学
高羅 愛弓	石井記念愛染園 附属愛染橋病院
玉田 一敬	東京都立小児総合医療センター
戸澤 麻美	愛媛大学
鳥谷部 荘八	仙台医療センター

塗 隆志	大阪医科薬科大学
原田 雅幸	奈良県立医科大学
松谷 瞳	東京大学
三浦 孝行	仙台医療センター
三橋 伸行	岩手医科大学
四ッ柳 高敏	札幌医科大学(事務局)
山下 建	札幌医科大学(事務局)
濱本 有祐	札幌医科大学(事務局)
権田 綾子	札幌医科大学(事務局)
北田 文華	札幌医科大学(事務局)
大沼 眞廣	札幌医科大学(事務局)
寺邑 千尋	札幌医科大学(事務局)
天王地 敏雅	札幌医科大学(事務局)
上田 直弘	札幌医科大学(事務局)
西端 魁志	札幌医科大学(事務局)
船橋 真利美	札幌医科大学(事務局)
事務 2 名	札幌医科大学(事務局)



4、Photo コーナー（学会の様子）

■1日目：ライブサージャリー 「小耳症（耳垂残存型）軟骨移植術」

手術室と会場を「ライブカメラの映像」と「音声」でつないだライブサージャリー。会場内の大画面スクリーンと4台のモニターから映像が配信され、映像を見ながら執刀医とのディスカッションが行えます。

学会第1回目(2017年)は耳垂残存型の軟骨移植術、第2回目(2018年)は耳甲介型の軟骨移植術、第3回目(2019年)はlow hairlineの軟骨移植術、第4回目(2021年)は耳介挙上術、そして今回の第5回目(2022年)は基本に立ち返り、耳垂残存型の軟骨移植術を実施しました。

第1回目開催から6年が経過し、肋軟骨フレーム作製も日々進化しています。ライブサージャリーではその点を重点的にご覧いただきました。

会場モデレーターの塗先生、手術室モデレーターの戸澤先生をはじめご参加の先生方から、使用しているナイロン糸や耳輪の削り方、ドレーンの抜去日数、余剰皮膚切除の手術のタイミング、耳介挙上に向けた肋軟骨のバンキングの仕方など、多岐にわたりにたくさんのご質問をいただき、例年以上に活発な質疑応答がなされました。



執刀医との質疑応答の様子

■1日目：意見交換会

耳介の治療に本気で取り組んでいる人、取り組もうとしている人による相談会、勉強会の意味合いを維持すること、日本の耳介再建レベルの底上げをしていくことといった本学会の趣旨やシステムの説明、昨年の会計報告、そして今後の学会の内容や構成への希望をアンケートでお伺いする旨、話がなされました。アンケートでいただいたご意見・ご希望をもとに、第6回目はより有意義な学会にしたいと思っています。

なお、第6回目の開催は2023年11月24日(金)～25日(土)を第1希望、10月27日(金)～28日(土)を第2希望とし、他学会の開催状況を見ながら最終的に決定することにいたしました。皆さまのご参加をお待ちしております。



会長 四ッ柳による説明

■2日目：症例検討会

耳の治療に熱意を持った先生方が、本音でディスカッションする症例検討会。症例検討会は日本耳介再建学会の目玉の一つです。

通常の学会では成功症例の発表が多いなか、本学会では相談症例の発表が数多く行われています。反省点を踏まえた上でどのような再建が良かったのか、この症例に対する手術アプローチはどうしたら良いか、同様の症例経験があった際にどのように対応したか等、納得いくまで質問・議論がなされ、積極的な意見交換が行われました。

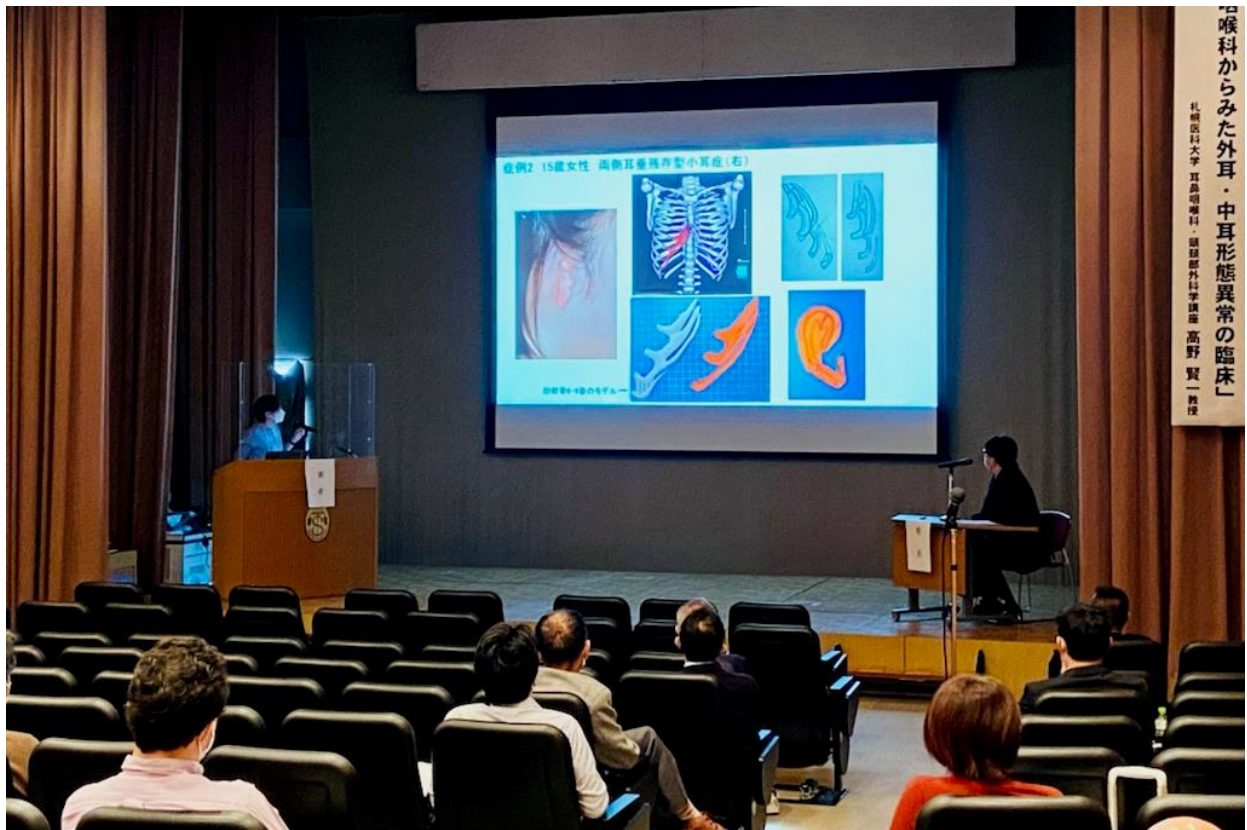
座長の鳥谷部先生、妹尾先生ありがとうございました。

また、急遽追加演題として、今年1月に急逝された永田悟先生ご執刀の小耳症患者さんについて、四ッ柳より報告がありました。永田先生ご執刀による軟骨移植術後の耳の写真や胸のCT写真、実際にその患者さんの耳介挙上術を行った四ッ柳の経験から、永田先生の軟骨採取の仕方や手術方法などを紐解いてお話ししました。



挙手による意向調査

『こちらの症例を先生が執刀するとしたら肋軟骨で再建しますか？耳介軟骨で再建しますか？』



ハンズオンセミナーでのご経験をもとに、人参を使って手術前のシミュレーションがされています

■2日目：学会場でのひとこま ～ 取材が入りました ～

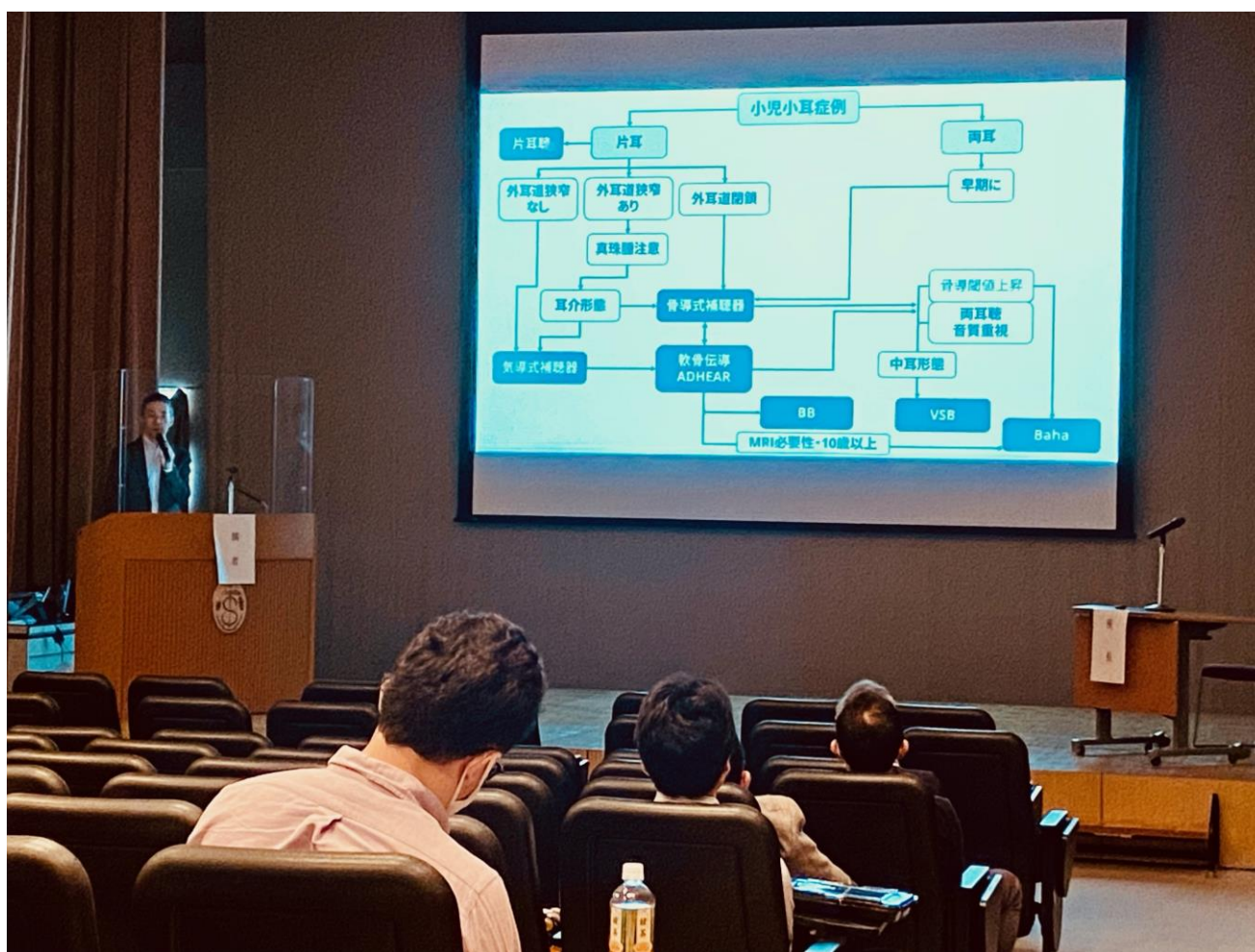
“小耳症”という疾患と治療法について報道し社会の理解を深めたい、小耳症治療を行う医師が少ない現状を伝え、社会の課題として捉えたいということで、STV 札幌テレビ放送（日本テレビ系の北海道ローカル局）『どさんこワイド179』の取材が入り、本学会の活動の様子も取材されました。妹尾先生、三浦先生にはインタビューのご協力もいただきました。ありがとうございました。



■2日目：ランチョンセミナー

「耳鼻咽喉科からみた外耳・中耳形態異常の臨床」

札幌医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の高野賢一先生にご講演いただきました。耳の発生や外耳道狭窄の場合に起こりうる真珠腫等の聴覚疾患について、また最近の補聴機器の聴覚レベル・料金・手術方法の比較等について、大変貴重なお話を伺うことができました。小耳症治療において、形成外科と耳鼻科がタッグを組み治療を進めていく必要性を改めて感じました。



小耳症患者の聴覚保障をどうするか、チャートを使ったとてもわかりやすいご説明をいただきました

■2日目：ショートレクチャー 「軟骨採取のコツ」

これまでの参加アンケートにて多数のご要望をいただいております肋軟骨採取の方法について、札幌医科大学 形成外科の北田文華先生にご講演いただきました。

肋軟骨の解剖的特徴や小耳症患者と肋軟骨形態異常の関係性について、また採取の難所となる2つのポイント、切開デザイン・採取の手順等を実際の動画を用いて詳しくご説明いただきました。



メモが進んでおり、参加者の皆さんの関心の高さが伺えます

■2日目：ハンズオンセミナー

「人参を用いた小耳症軟骨フレームカービング」

肋軟骨に近い感触を持つ人参と彫刻刀を使用し、肋軟骨フレームを作製します。フレームが出来上がったあとは陰圧をかけて、よりリアルに耳の凹凸の出方を感じていただきます。ハンズオンセミナーの回を重ねるごとに、先生方のフレーム作製のレベルが向上されていることがわかります。

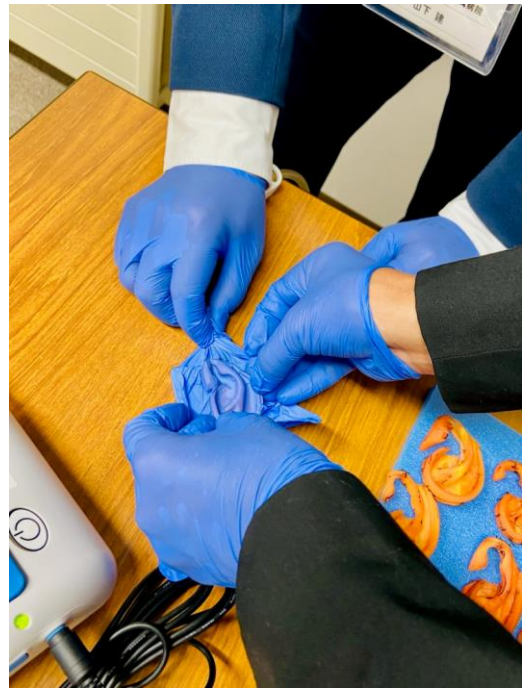


まずは、動画で手順を見ていただきます





お一人ずつ、フレームをみていきます



陰圧をかけます



笠井先生、作品とともに



今年の全作品、ハイレベルです

5、参加者の感想

1. 静岡県立こども病院 形成外科 桑原 広輔先生より

今回初めて参加させていただきました。今年は参加できることを知り、まだ暑い時期からこの学会の開催をととても楽しみにしておりました。当日は1日目のライブサージャリーから2日目のハンズオンまでフルコースで参加させていただき、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

帰りの飛行機の機内でふと、他の学会では得られないような感覚の中にあることに気づきました。遠方の学会の帰路では、疲れた、腰が痛い、早く家に帰りたい、明日の手術しんどい、などのマイナスな感情を抱きがちですが、今回は違い、確かな知識とやる気を手に入れて、また明日から頑張ろう！と素直に思えるような爽やかな充実感に満ちていました。その理由について羽田に着くまでの間、自分なりに考察してみました。そして行きついた答えは、この学会は「美しい学会」だったから、ということでした。ちょっと抽象的な表現ではありますが、私の感じた本学会の美しさを勝手に挙げ、参加にあたっての感想とさせていただきます。

・四ッ柳先生の手技

ライブサージャリーでは会場に大型のモニターをいくつも設置していただき、助手をやっているかのごとく鮮やかな術野を拝見できました。四ッ柳先生の迷いのない手つきと、恐ろしい速さで完成した生きた耳、国宝級の職人さんの仕事を目の当たりにするようでした。その一方で、決してウルトラCの連続でなく、基本的かつ正確な外科手技の積み重ねで成り立っていること、随所によく考えられた工夫が散りばめられていることを知り、まさに百聞は一見に如かずとはこのことかと感服しました。今回は耳垂残存型でしたが、繰り返し見たい、その他のタイプもぜひ拝見したいと感じ、来年以降の楽しみとなりました。

・ご参加の先生方の真摯な姿

症例検討会では各施設の先生方が症例を持ち寄り、困った症例やうまく行った症例などについて議論を交わしました。どの施設の先生も小耳症治療について真剣に向かいあっており、純粹に患者さんのために良い手術をしたいという熱い気持ちが伝わり、自分もまたそうありたい、そのために努力をしようと感じました。

・札幌医科大学形成外科学教室のホスピタリティ

私は今年の7月に3日間手術および外来を見学させていただきました。その際に医局の先生方や秘書さんが大変親切にしてくださり、とても良い経験ができました。今回の学会も教室が一丸となって盛り上げている様子が分かりました。四ッ柳先生が食事の席で「うちの医局員の感心するところは・・・」と笑顔で仰っていたことも印象的でした。運営・マ

ネージメント等も大変であったと思います。札幌医科大学形成外科学教室の皆様、お骨折りいただき本当にありがとうございました。

・札幌の街

またこの学会を色付けるものとして晩秋の札幌の情景も上げられると思います。街路樹や北大植物園の紅葉はまだ残っており、タクシーを使わず歩こうという気になりました。歩けば風は冷たく冬の予感もありました。白樺派の作家、有島武郎が書いた札幌の景色はどうだったかなど想像を巡らせ、「エモい」時間も過ごせました。

ぜひ今後も参加させていただきたいと思います。そして私もこの学会を少しでも盛り上げられるよう微力ですが協力していきたいと思います。そのためには今回いただいた数々の知見を日々の診療に活かし精進いたします。ありがとうございました。



ハンズオンセミナーでの桑原先生、作品とともに

2. 福岡大学 形成外科 小柳 俊彰先生より

今回、福岡から初めて参加させていただきました。会長の四ッ柳先生を中心に、日本全国から耳に対して情熱を持っている先生方が集まられており、とても内容の濃い、でも暖かい会でした。私は、今年の3月に札幌医科大学にて3日間見学させていただいており、それ以来の札幌医科大学訪問でした。3月の見学の際には雪が降り積もっていましたが、今回は雪は降っておらず、安心したような、めったに雪をみる機会のない九州人の私としては若干残念な気持ちもありました（笑）

■1日目

・1日目のライブサージェリーは今回は耳垂型小耳症に対する肋軟骨移植でした。会場各所に数台の大きなモニターが設置され、また前方スクリーンにも大画面で術野が映し出されていました。2画面表示で肋軟骨採取と耳介側が同時に見ることができ、特に耳介側では手元の詳細な動きや、軟骨フレームの細かい成形までしっかりと見せていただける素晴らしい環境でした。肋軟骨採取は北田先生が担当され、あっという間に3本採取完了されており会場には感嘆の声が上がっていました。耳介側に関しては、皮弁挙上やフレーム成形の実際を拝見させていただきました。手術開始から2-3時間程度で完璧な耳が完成、手術終了していました。その美しさと速さは何度見ても神業です…。耳介前方にあった陥凹の処理の方法や、耳垂を前方移動させる際のポイントなどもご教授いただき、また個人的に気になっていた、耳介挙上のための肋軟骨を如何に一度目に使用せずに残しているのかという点もすごく勉強になりました。

・ライブサージェリーの後は、意見交換会がありました。本学会の主旨、収支、今後の運営方針なども示していただきました。お忙しい中このような大変な学会を主催していただいている札幌医科大学の皆さまには本当に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。また、今後ライブサージェリーで見たい症例に関するアンケート調査もありました。感想に記載するようにとのことでしたので、私は小甲介タイプの肋軟骨移植を是非希望させていただきます。

・1日目夜は総合懇親会でした。当学会初参加のため緊張していましたが、全く疎外感はなくとても楽しい会でした。席も事前に調整いただいております、様々な気さくな先生方とお話させていただく貴重な機会をいただきました。もしも今後初めて参加される方も是非懇親会まで参加されることをおすすめします。

■2日目

・2日目朝からは症例検討会でした。各先生方がそれぞれの経験症例、相談症例を持ち寄って発表、討論されていました。そして討論の最後には四ッ柳先生からの一言、その豊富な経験に裏打ちされたアドバイスがいただけるというのは本当に貴重な場だと感じまし

た。私自身、札幌医科大学見学後に手術を行った2症例に関して発表させていただきました。四ッ柳先生に教えていただいた成果を、ご報告させていただけるすごく光栄な場でした。これからも九州における四ッ柳法といえば福岡大学だと認識いただけるように、良い結果を出し続けていけるよう頑張ります。

・2日目昼はランチョンセミナーでした。札幌医科大学の耳鼻科教授高野先生から外耳、中耳の形態異常に関してご教授いただきました。形成外科医としてなかなか知ることのできない、耳鼻科の先生から見た視点を教えていただき、とても勉強になりました。

・2日目午後はショートルクチャーでした。札幌医科大学の北田先生から短時間、小切開での軟骨採取のコツを動画付きでご教授いただきました。数年前の手術手技学会で北田先生が上記方法を発表された後から、当院でもWound Retractorを使用した小切開法を実践しています。今後は今回教えていただいたコツを取り入れてさらに短時間での採取を目指していきたいと思います。

・2日目最後はハンズオンセミナーでした。数日間干した人参を使用した肋軟骨フレームカービング。私自身、福岡大学で何十回とこの人参フレームを作成してきましたが、実際に手を動かしながらフレーム成形における疑問点を直接四ッ柳先生に質問させていただけるというのは、本当に貴重な機会でした。成形したフレームは最後に陰圧をかけ皮下に入れた後のリアルなイメージまで見ることができました。



■最後に

この学会の素晴らしいところは、やはり四ッ柳先生が惜しみなく技術を披露、ご教授いただける点です。私のような他大学から来たものにも優しく、些細な疑問にも的確にご教授いただけるそんな四ッ柳先生の人格が前面にでている学会だと感じました。四ッ柳先生を始めとした札幌医科大学の皆さまは本当に忙しい中、学会を運営していただきありがとうございました。来年以降も是非毎年参加させていただきたいです。

6、主催者から

札幌医科大学 形成外科 四ッ柳高敏

昨年は本学会は開催したものの、コロナ禍であったことから、出席者は少なめだったのですが（他施設からお越しになった方 20 名、でも逆にあの状況下でよくこれだけの方にお越しただけたものと思っております）、今年は昨年よりやや移動の自由が利くようになったこともあり、他施設から 26 名と昨年より多くの方にお越しいただきました。

元々小耳症に興味を持つ医師の人口は知れていますので、そんなに爆発的に多くなることはなく、また当教室員の手作りの学会ですので、あまり大勢の方にお越しいただいても対応できないという問題もありますが・・・初めてご参加の先生も増えてきましたので、少しずつですが、本学会も認知されてきたように思います。またその先生たちからも、来年も来ますと言っているのので、徐々に輪が広がってきたという手ごたえを感じております。ただし、本学会に参加はしてみたいが二の足を踏んでいる医師もいらっしゃると思いますので、閉鎖的な印象を持たれないような工夫も必要と感じております。とにかく余すことなく技術と知識をお伝えし、今後耳介再建のレベルが下がることなく後世に続いていくことを趣旨とした学会ですので、その趣旨に伴う形を考えていく必要があります。一方で、出席者にはリピーターの先生も多いので（皆勤賞の先生も結構いらっしゃいます）、その方達にも飽きられることなく常に新しい情報を発信していかなければならないというプレッシャーも感じております。私自身もまだまだあっと驚くような進化を遂げていかなければならないと思っています。

ライブサージャリーでは、第 1 回以来の耳垂残存型小耳症に対する肋軟骨移植を選択しました。実は前回の手術時には、まだステンレスワイヤーを用いて肋軟骨フレームを作製していましたが、その他にも何点か新たな改良点が出てきたので、それらを紹介する意味がありました。最前線の軟骨フレームをお見せすることができたと思います。モニターの一つが接続不良という問題もあったのですが、大きなモニターを準備したので（これが結構お金がかかります）、臨場感を持って観れたのではないかと思います。

症例検討会は、地方局の STV 札幌テレビ放送が撮影しにいらしていたので、少々若手の方は質問しにくかったかもしれません。STV さんより、札幌在住の小耳症患者を 12 月の手術を含めドキュメントで撮りたいというお申し出をいただき、その流れの中で、本学会の撮影も希望されたということです。一部の先生にはインタビューにも対応いただきました。ご協力有難うございました。この検討会は通常の学会発表とは異なり、困った症例を提示して相談したり、苦労した症例を報告したりして、みんなで本音のディスカッションする、という趣旨なので、もっと色々な症例を気軽に提示いただけるよう工夫が必要ではないかと考えております。

ランチオンセミナーは、前回アンケートで耳鼻科的知識の講義が最も希望が多かったことから、当大学の耳鼻咽喉科高野教授にお願いしました。素人にもわかるようにかみ砕いて講演いただきました。私自身もこれまで知らなかったことが多々あり非常に勉強になりました。

また、アンケートで肋軟骨採取を観たいと例年ご意見をいただいているのですが、狭い視野の中でコツを伝授するのは現実的ではないため、本年より新しい試みとして、当科北田医師に『軟骨採取のコツ』と題してレクチャーしてもらいました。皆さん熱心にメモを取っていたので、かなり参考になったのではないかと思います。予想以上に理論的に説明してくれたので、そうか、やはり勢いと感覚だけではあんなに早くは採取できないよな〜と私も改めて北田先生を見直しました。

最後のハンズオンセミナーでは、ベースフレームを二本の軟骨（人参？）を重ねて立体感を出すという私の手技を理解いただくところが難しいと思うのですが、かなり皆さんの理解度が高くなっていて、毎年出来栄えが向上しているのを感じます。軟骨フレームの立体感を体感することが一番重要なのですが、この点もかなり皆さん掴んでいるように思いました。

最後に、本学会は事務局長の山下先生と教授秘書の菊地さんの綿密な準備なしには成立しない学会であり、また教室員の全員が適材適所で良く働いてくれたおかげで、今年も何とか無事終了できました。心より感謝しております。